

こころ  
心

な  
和



福島県立大笹生支援学校  
いじめ防止対策委員会発行  
第2号  
令和5年9月29日

7月に実施しましたアンケートへのご協力、ありがとうございました。中学部、高等部生徒アンケートも実施しましたので、これらについて結果と今後の取組についてお知らせいたします。

### 保護者アンケートから

全校児童生徒の保護者217名中190名から回答がありました。学校から提供してほしい情報として、「いじめが発生した場合の取組みについて」「いじめを把握する仕組みについて」の項目に多くの回答が寄せられておりました。また、「心配なことがあった場合の相談先について」も情報が知りたいとの声がありましたので掲載いたします。ぜひ、ご確認いただきたいと思えます。

### いじめが発生した場合の取組みについて

### いじめを把握する仕組みについて

○ 発見、気がつきがあった時点で各学部の学部副主事（いじめ防止対策委員）へ報告があります。その後、関係する児童生徒から情報収集を行い、速やかにいじめ防止対策委員会で事実確認や指導等の対応をまいります。

※ 本校ホームページ「いじめ防止基本方針」のページに詳しく記載されておりますので、ぜひご一読ください。

URL <https://ohzasou-sh.fcs.ed.jp/>



### 心配なことがあった場合の相談先について

#### <学校>

- 担任 ○学部主事 ○教頭 ○養護教諭
- いじめ防止対策委員会
- 地域支援センターささっこ（特別支援教育コーディネーターが対応します。）

早期に状況を把握し、環境の改善、心のケア、対象児童生徒の指導などを継続して行います。



#### <外部機関>

- 「ふくしま 24 時間子ども SOS」  
子どものための 24 時間電話相談  
0120-916-024
- 「ダイヤル SOS」  
いじめ問題や不登校、体罰などの教育相談。子どもも大人も相談できます。  
0120-453-141



心の相談箱

南校舎1階昇降口に「心の相談箱」が設置してあります。生徒が抱えている心や体の悩み、問題を気軽に相談できるようにして安心・安全な生活を送れるようにすることと、悩みを人に相談する方法を学ぶようにすることを目的に、3年前から高等部生徒を対象に始めました。

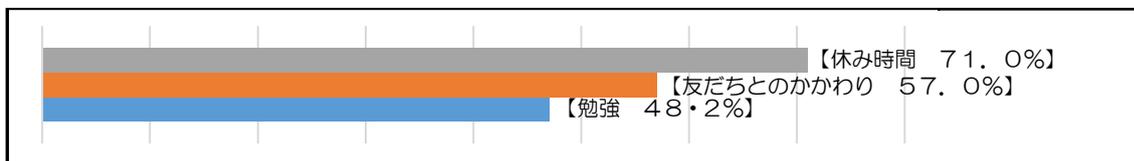
いじめ防止対策委員会では、「心の相談箱」への相談、悩みをもとに、生徒たちが抱える問題や状況を把握し、いじめにつながるような案件については、速やかに対応してまいります。

## 中学部・高等部の生徒アンケートから

### 中学部 (アンケート対象生徒数21名 回答生徒数 21名)

- 今回、初めての実施となりました。学校生活の質問で「とても楽しい」「楽しい」と答えた生徒は95%となりました。楽しいと感じる項目については、「休み時間」が71%、次いで「友達とのかかわり」が57%、「勉強」が47%となっています。

#### 【学校生活が「とても楽しい」「楽しい」と感じる項目】



- 「いじめにつながる行為の有無」の項目では、「ある」の回答が10%ありました。その中で、「暴力を振るわれる」の回答がありました。状況を確認したところ、回答者からは「肩を強くもまれた。」との話があり、相手にも内容を確認したところ、「ふざけて遊んでいた。」と思っていたことが分かりました。このケースについては、「自分がそのつもりはなくても、相手が嫌だと思ったら嫌なことをしていることと同じであること」「相手の気持ちを考えて行動できるようになること」等を指導し、解決されています。

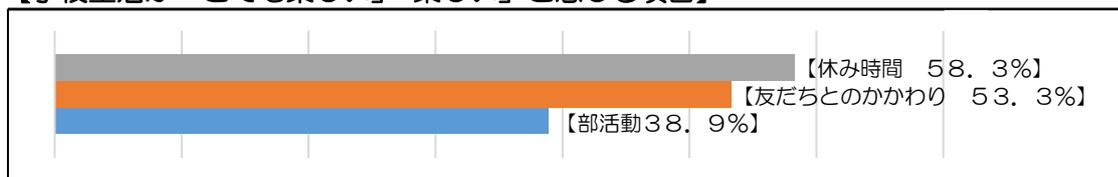
中学部では、友達同士かかわり合う中で、自分はスキンシップのつもりで行っていた行動が、相手は不快に思っていたというケースがあります。身体が大きくなり、力も強くなっていく時期でもありますので、中学部の重点事項にもなっている、「集団の中で他者と協力・協働して社会に関わろうとする人間関係形成・社会形成能力の育成」を目指し、生徒一人一人の発達年齢に合わせた指導に取り組んでいきたいと思えます。



### 高等部 (アンケート対象生徒数70名 回答生徒数 67名)

- 学校生活についての質問では、「とても楽しい」「楽しい」と答えた生徒は89.5%で、昨年度よりも5%程上昇しました。「とても楽しい」との回答は、35.8%となっており、こちらは昨年度より6.8%上昇しています。「とても楽しい」「楽しい」と感じる項目で最も回答数の多かったものは、「休み時間」58.3%、次いで「友だちとのかかわり」53.3%、「部活動」38.9%でした。

#### 【学校生活が「とても楽しい」「楽しい」と感じる項目】



- 「いじめにつながる行為の有無」の項目では、「ある」18.0%でした。行為については、「悪口を言われる」が8名となり、昨年度の回答0名から多くなりました。

これは、言葉による「相手への気持ちの伝え方」、「相手の気持ちの捉え方」など、思いの『すれ違い』が原因の大半でした。言葉は強弱、表情、動作、言葉づかいなどで意味が大きく変化します。「自分はそんなつもりで言ったんじゃないのに…」、「どんな風に相手に伝えていいかわからない…」などの声が生徒から日常的に聞かれます。

これらの件については、状況を確認し、友人、男女関係などの『すれ違い』は適切に解決されています。今後の生活において、生徒たちは様々な状況に直面する機会があるかと思えます。その場に合った言葉遣いや振る舞いをしていくことができるよう、今後も継続して指導していきたいと考えます。

ご心配なことやお気づきのことがありましたら、いつでも学校へ連絡ください。